令和７年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （県 立 志 木 高 等 学 校）

目指す学校像	志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校

重　点　目　標	
	1　学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 2　志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 3　安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 4　地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年　度 評 価（　月　日 現在 ）			実 施 日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 〇平日の家庭学習時間が少なく、学習習慣が確立されていない生徒が多い。 〇ＩＣＴ支援員を活用した教職員研修会を実施するなど、授業力の向上という点で成果が出ている。 【課題】 〇家庭学習の必要でを理解させるとともに、具体的な学習方法を示す。 〇重点授業公開をさらに充実させ、教員の授業力を向上させる。 〇ICT活用に対するサポート体制を充実させ、学校全体のＩＣＴスキルのレベルを向上させる。	学習意欲の向上と基礎学力の定着	①学習状況の振り返りを定期的に行い、家庭学習の把握と計画的な課題の配信を進める。 ②生徒の将来像を明確にし、進路実現に向けた計画を作成させる。 ③学習コンテンツを効果的に活用しながら隙間時間を有効活用させる。	①アンケート結果から家庭学習時間の増加が確認できたか。 ②進路実現に向けた計画が作成できたか。 ③学習コンテンツを効果的に活用できたか。				
		ICT端末の活用と授業力の向上	①ICT支援員を活用した簡易支援制度を充実させ、教職員のICTスキル向上させる。 ②課題配信のＩＣＴ化を進め、学校全体で情報を共有するシステムを構築する。 ③ＩＣＴ端末を活用した学習環境を整備し、生徒の学習意欲を向上させる。	①ICT支援員を活用した簡易支援制度が構築できたか。 ②課題配信のＩＣＴ化により、情報を共有するシステムを構築できたか。 ③生徒の学習意欲を向上させることができたか。				
2	【現状】 〇四年制大学等の進学実績は大幅に上がっている。 〇進路決定に動き出すのが遅い生徒が一定数いる。 〇遅刻者数が多い 【課題】 〇進学先の決定や受験方法について、最新情報の提供も含めてきめ細かい指導が必要である。 〇スタディサポートや学習コンテンツを活用して、生徒の意識改革を早期から行う必要がある。 〇遅刻者数を減少させ、タイムマネジメント力を向上させる必要がある。	進路実現に向けた生徒の意識改革	①細分化した担当分野の業務内容を見える化するとともに、新たな取組への企画・立案を進める。 ②資格検定の取得のための取組を企画する。 ③進路自習室の整備し、学集環境を充実させる。 ④「Classi」の活用検証を行う。 ⑤他の学習コンテンツとの比較・検討に取り組む。 ⑥遅刻者数の減少に向けた取組を全職員で行う。	①業務内容を明確化したうえで、新たな取組への企画・立案ができたか。 ②資格検定の取得のための取組を企画することができたか。 ③進路自習室の環境を充実させることができたか。 ④「Classi」の活用アンケート結果を分析し、総括することができたか。 ⑤他の学習コンテンツの活用について、検討することができたか。 ⑥遅刻者数が昨年度よりも減少したか。				
3	【現状】 〇家庭環境、能力・適性、興味・関心等が多様化しており、心理や人間関係が複雑化している。 〇対人関係や集団生活に不安を持つ生徒が増えており、不登校となってしまう生徒が一定数いる現状がある。 【課題】 〇生徒の実態に応じて指導を行う体制づくりが必要である。 〇自他の個性を尊重し、相手の立場にたって考え、行動できるようにすることが重要である。	生徒理解の観点での個別指導の定着	①教職員に、いじめの認知に関する共通認識を持たせる。 ②学校内の複数の教職員で行うチーム支援の体制づくりを行う。 ③学校独自のスクールカウンセラー等を活用し、早期発見・早期対応を実践する。	①教職員のいじめの認知に関する理解が深まったか。 ②学校内の複数の教職員で行うチーム支援体制を確立することができたか。 ③学校生活のアンケート結果を分析し、総括することができたか。				
		教育相談体制の拡充	①多様な生徒に対応するため、学校内での教育相談体制を構築する。 ②心身の健康問題や発達特性、家庭環境等、様々な視点で生徒を捉え、包括的な生徒支援を行う。	①多様な生徒に対応するための教育相談体制を構築することができたか。 ②包括的な生徒支援の取組を実践できたか。				
4	【現状】 〇PTA活動の在り方が見直されるようになり、参加の仕方も多様化してきている。 〇中学生やその保護者の広報への期待は大きく、本校の活動への興味関心が高まっている。 【課題】 〇ＰＴＡ活動の精選を行い、保護者の負担軽減を進めることが重要である。 〇中学生やその保護者のニーズを正確に把握し、丁寧できめ細かい情報発信を進める必要がある。	PTA活動の新たな体制づくり	①ＰＴＡ活動のスクラップ＆ビルドを進め、新たな活動計画を構築する。 ②さくら連絡網の機能を最大限に活用できるように工夫する。 ③生徒の主体的な取組として、広報活動に参加させる。	①新たな活動計画を構築することができたか。 ②さくら連絡網の機能を最大限に活用し情報発信ができたか。 ③生徒ボランティアを活用した取組みができたか。				
		広報に関する企画・立案の拡充	① 他校の実施状況を分析し、ニーズの高い企画を実践する。 ②外部メディアやSNS等を積極的に活用し、効果的に教育活動を配信する。	①中学生やその保護者が満足できるような企画を計画することができたか。 ②本校の魅力を広く周知し、入学したい学校として認知されたか。				